



AIDS(Acquired Immune Deficiency Syndrom) - 1

<https://l-hospitalier.github.io>

2015.12

感染対策の基礎知識

#17

AIDSの歴史 : 1981年 最初の臨床例は UCLA からのカリニ肺炎のレポート。 いずれもホモの男 & Injection Drug User でニューヨーク居住歴があった(年内に120名死亡)。

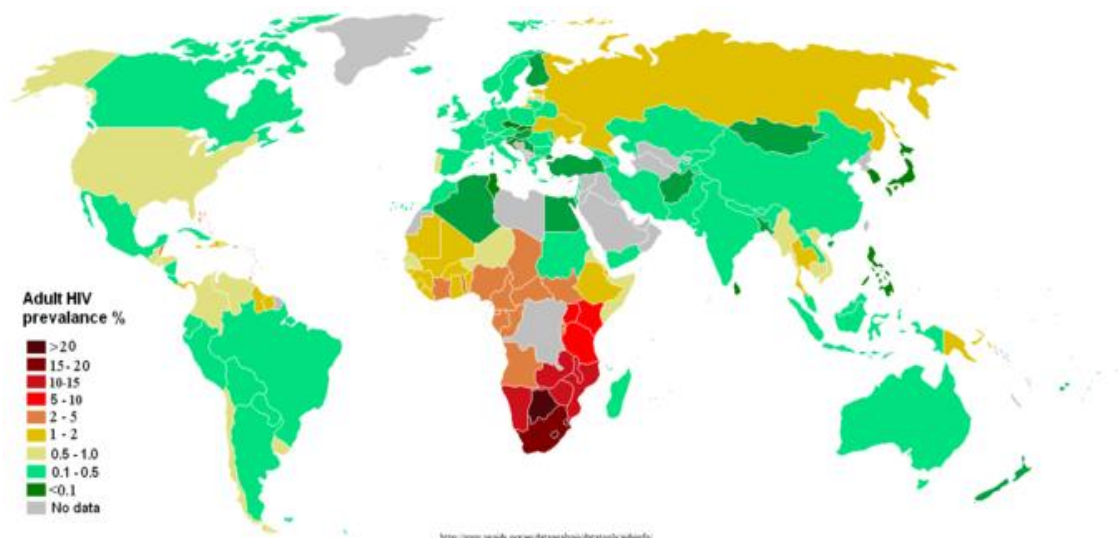
1982年 AIDS (後天性免疫不全症候群) と命名、5大陸で存在を確認。 **1983年** Robert Gallo(NIH)が HIV ウイルスを発見(ほぼ同時にパスツール研の Luc Montagnier も発見、1985) と発表される。 しかし 1989 年シカゴ・トリビューンはギャロがモンタニエから送られた HIV のサンプルを自分が発見したものとして発表した不正を報道。 NIH と United States Office of Research Integrity (後の ORI: 米国研究公正局) はホフマン・ラ・ロッシュ社の協力を得てギャロの HIV はモンタニエから送られたものであると結論 (They concluded that the virus used in Gallo's lab had come from Montagnier's lab)。ギャロ (現メリーランド大ボルチモア校) とモンタニエ (Nobel Prize Laureate, 2008) はその後も協力。 (モンタニエの) HIV が AIDS を発症すること確認したのはギャロの功績だが無視される。 郡司篤晃 (厚生省生物製剤課長、私の指導教官) は 1982 年知人 (村上省三、女子医大輸血部教授) を通じてエイズ感染の危険性を知り、1983/6 にエイズ研究班を召集したが血友病患者の薬害 AIDS を防げず。(Food & Drug Administration の Frances Kelsey は 1 年以上製薬業界の圧力に耐え、49 国で発売のサリドマイドの催奇形性データを要求、認可せず。全米で 4000 例と予想されるサリドマイド禍を未然に防ぎ FDA の名を高めた。一方オーストラリアの産科医 William McBride はサリドマイドの催奇形を初めて報告したが、後にデータ捏造で解雇)。

1985 年 日本初の AIDS 感染例 (薬害 AIDS)。

1989 年 AIDS 予防法 (記憶では、年齢性別のみ知事に報告)*。 **診断法** : HIV-1, -2 に対する**抗体検査 (スクリーニング)** と **NAT (核酸増幅法)** 検査がある。 米国では唾液を使う自己検査用キットを FDA が認可 (2012、輸入可能)。



← F ケルシーと JFK



現在輸血用血液は HB, HC, HTLV-1, HIV, ヒトパルボ B19, 梅毒 を検査、ウィンドウ期間 (抗体検出可能になるまでの期間) は HB,HC で 30 日程度、HIV では 10 日前後。現在 HB,HC は 1-10 万単位の輸血に 1 回。 HIV は現在まで 4 例。

*感染症法 5 類、全数把握、年齢、性別、国籍を知事、特別区長に 7 日以内に届出。 日本の罹患率 (morbidity) は 10/10 万人程度、HIV 感染率はその倍 (2 万人)。 全世界で 3500 万人。